

4 九州大学・御供田遺跡（5次調査）

所在地 春日市春日公園5丁目13番

調査面積 301.81m²

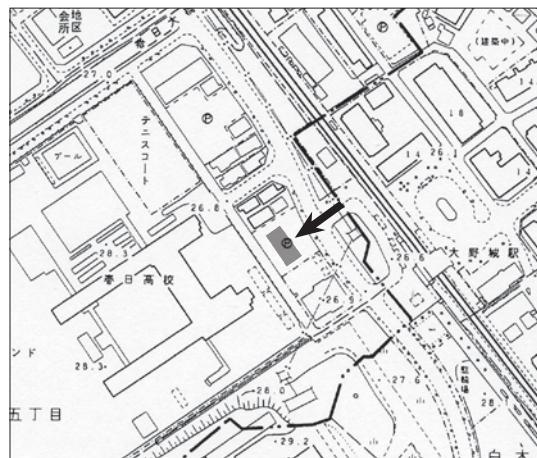
調査期間 2013年10月31日～12月27日

九州大学・御供田遺跡は市域の東部で、5次調査地点は牛頸川右岸の丘陵北端の低位段丘上に位置し、標高26.8mを測る。これまでの周辺における調査では、弥生時代の甕棺墓群や弥生時代から古代にかけての住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝などが確認されている。

1. 調査地の位置 (1/5000)

今回の調査地点は当遺跡の東部にあたり、1978年に福岡県教育委員会によって調査された御供田遺跡第3地点C地区の西側に隣接する。このときの調査では竪穴住居跡8軒、土坑9基、掘立柱建物跡1棟、溝状遺構が22条検出されている。遺構の時期は7世紀前半から12世紀で、特筆するとして7世紀前半の竪穴住居跡から円面硯が出土している。

今回の調査は、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



2. 調査区全景 (上が東)

遺構・遺物

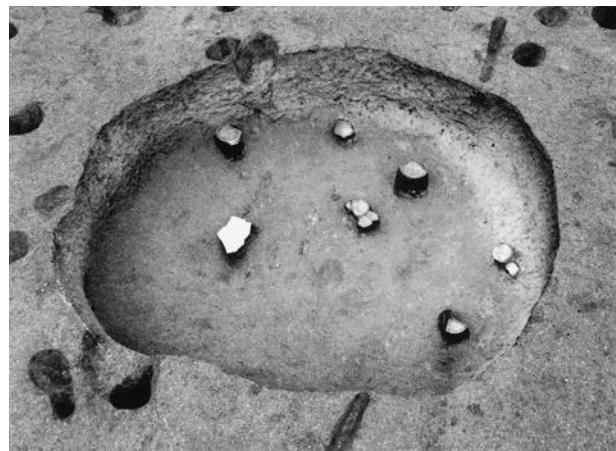
1号土坑は調査区の北西隅でごくわずかに遺構の一部を検出したため断定はできないが、竪穴住居跡の可能性も考えられる。2号土坑は長軸2.5m、短軸2.1mの橢円形を呈し、深さ60cmである。土師器、須恵器の他に焼土が多く出土したことから検出当初は土器焼成遺構の可能性を考えた。しかし、土坑の壁や床面は焼けておらず、焼土も床面から約20cm上のところでまとまっていたことから、廃棄土坑と思われる。

1号溝状遺構は調査区の北東部で、南北方向に延び、途中で浅くなり途切れる部分がある。幅約20cm、深さは南側で約10cm、北側で約12cmと高低差はほとんどない。2号溝状遺構は幅約30cmで、北西—南東方向に延びる。直線的ではなく、ゆるやかに弧状を描く。深さは南東側で約24cm、北西側で約39cmである。出土遺物には土師器があり、時期は10世紀頃と考えられる。調査区の中央で検出した4号溝状遺構は幅約60cm、深さ55cmで、やや南北方向に直線的に延び、出土遺物はほとんどない。土層断面の観察から1度掘り直されたと考えられる。この他、ピットを多数検出し、掘立柱建物跡が複数棟あると考えられるが、断定できるものはない。

小 結

本調査地点は検出した遺構、遺物から平安時代の集落の一部であると考えられる。東側に隣接する大野城市的御供田遺跡でも平安時代の遺構が確認されている。大野城市御供田遺跡4次調査で確認された区画を示すと考えられる溝の形状が4号溝の形状とよく似ており、同時期の集落が広がるものと推測される。

(森井)



3. 2号土坑（西から）

4. 遺構配置図 (1/100)

